

1. 基本情報

- (1) 国名：コートジボワール国（以下、「コートジボワール」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：バ・ササンドラ県
- (3) 案件名：サンペドロ・マン送変電設備整備計画（Project to Reinforce the Electricity Network between San-Pedro and Man）
- (4) 計画の要約：

本計画は、サンペドロ及びマンにおける変電所に超高圧 400kV 変電設備を増設し、両変電所間に 1 回線の 400kV 送電線を新設して、コートジボワール中西部・北部及び周辺国への送電容量増加と電力供給の安定化を図り、もって周辺国を含む地域住民の経済・産業活動の活性化及び生活環境の改善に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

サヘル地域をはじめとして周辺では政情の不安定な国が多い中、コートジボワールでは 2011 年のウワタラ大統領就任以降、比較的安定した情勢が続いている。同国は、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の CFA フラン圏（西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）加盟 8 か国）の GDP の約 4 割を占めるなど、ECOWAS 圏における政治・経済の中心国かつ西アフリカ「成長の環」の主要国となっており、ECOWAS 圏の安定・発展・地域統合において重要な役割を担っている。また、同国は、国際場裏において、常に我が国の基本的立場を支持する友好国であることから、同国との良好な二国間関係を強化することは極めて重要である。

本計画は、同国の経済成長の基盤となる安定した電力供給に資するものであり、本計画を通じて二国間関係の強化が期待される。加えて、本計画は、周辺国への送電量増加を通じ、西アフリカ 14 か国が加盟し国家間で電力を融通する仕組みである西アフリカパワープールにも貢献するものであり、地域統合及び発展にもつながることが期待される。

我が国は、「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」を踏まえた質の高いインフラ投資の推進を支持するとともに、2022 年 8 月に開催した第 8 回アフリカ開発会議（TICAD8）において、連結性・質の高いインフラ投資に取り組むことを表明しており、本事業はそれを具体化するものである。また、本計画は、同国政府の開発課題・開発政策及び我が国の協力方針に合致するものであるとともに、SDGs ゴール 7（エネルギー）、9（インフラ、産業化、イノベーション）、13（気候変動）に資するものであり、事業実施を支援する必要性は高い。

- (2) 当該国における電力セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

コートジボワール政府は国家開発計画（2021-2025）の柱の一つ「経済構造転換

の加速化のための産業集積」において経済・産業開発を重視し、国内への低コストで安定した電力供給を目標としている。また、西アフリカパワープールにおいて融通される電力の21%を供給する等、同国は自国を地域のエネルギーハブとして位置付け、近隣諸国への電力輸出を促進している。

地域の人口増加や国内の経済成長に伴い、国内外の需要増大を受け、発電・送電マスタープラン(2022-2040)において、国内の発電容量を2040年までに8,604MWに増大させることを計画している(2022年時点:2,648MW)。そのうち、サンペドロ近郊ササンドラ川は、国内に3か所ある水力発電拠点のうちの1つであり、既存発電所を含めた同水系における水力発電所の発電容量は2024年の約440MWから2030年には約1,200MWに増加される計画であり、発電された電力は西部地域を通過して北部及び近隣諸国まで送配電される。サンペドロの北部約400km地点に位置するマンは、近年鉱山開発が進み本邦企業も進出しているトンクピ地方の州都であることに加え、リベリア、シエラレオネ、ギニア等の周辺国を含む各配電先への送配電の重要拠点である。一方で、既存のサンペドロ-スブレ-デュエクエ-マンを繋ぐ送電線は225kV2回線で構成されており、水力発電所の新設により増加する発電容量に対して送電容量が不足する見込みであることに加え、電力損失率の削減を通じた長距離送電の効率化が課題となっている。

本計画は、サンペドロ及びマンの既存変電所に超高圧400kV変電施設を増設し、両変電所間に400kV送電線を新設することで、コートジボワール中西部、北部及び近隣諸国への送電容量増加と送電効率向上を通じた電力供給の安定化を図り、コートジボワールの経済・産業活動の活性化及び周辺国を含む地域住民の生活環境の改善を促進するものである。また、本計画は水力発電所の発電容量増強に対応して送電設備整備を行うものであり再生可能エネルギーの普及推進に繋がるものであるため、温室効果ガスを2030年までに28%削減するという同国のパリ協定に基づく「自国が決定する貢献(NDC)」における目標とも整合するものである。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容:

- ア) サンペドロ・マン間の400kV送電線(370km)1回線の新設(国際競争入札)
- イ) サンペドロ及びマンの変電所における400kV変電設備2件の増設(国際競争入札)
- ウ) コンサルティング・サービス(詳細設計、入札補助、施工監理等)(ショート・リスト方式)

② 期待される開発効果: コートジボワール中西部及び北部、近隣諸国の地域住民の生活環境の改善及び産業活動の活性化が期待される。

③ 借入人: コートジボワール共和国政府(The Government of Côte d'Ivoire)

④ 計画実施機関/実施体制: コートジボワール電力公社(Côte d'Ivoire Energies)

- ⑤ 他機関との連携・役割分担：コートジボワールにおける地方電化事業を実施しているアフリカ開発銀行や世界銀行などとの協調融資の可能性を検討。
- (2) 運営／維持管理体制：設備資産管理、送配電事業の計画立案はコートジボワール電力公社が行う。送変電施設の運用・保守は民間委託された企業が担う。
- (3) その他特記事項：本邦技術の活用可能性について調査の中で検討する。
- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
 - ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

パキスタン「二次系送電網拡充事業」の事後評価等（評価年度：2010年）では、送電線下補償問題の交渉等により、事業進行に遅延が生じたため、過去の施工実績を踏まえて実施計画を立案し、事業遅延を防止する取り組みの検討が必要であるとの教訓が得られている。本計画では、送配電の新設コンポーネントが含まれることから、線下補償交渉等により事業遅延が生じないように、協力準備調査、詳細設計等において、実施機関と円滑な事業進捗のためのスケジュールや対応策を確認する。

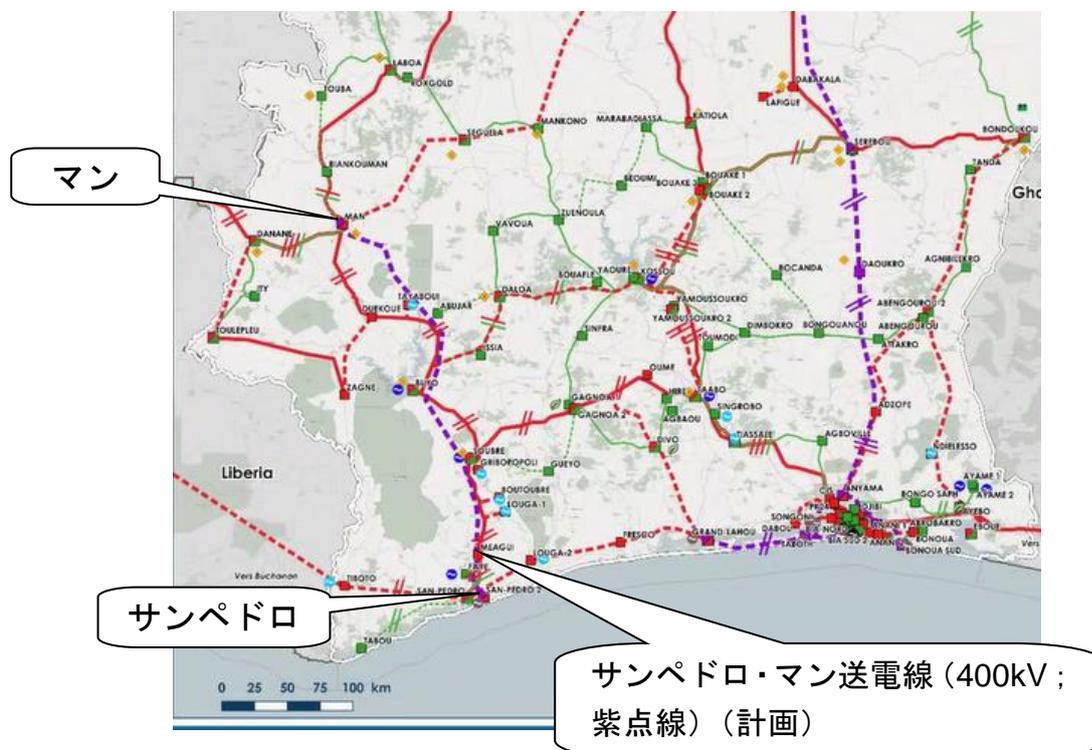
以 上

[別添資料] 地図「サンペドロ・マン送変電設備整備計画」

地図「サンペドロ・マン送変電設備整備計画」



出典：United Nations(<https://www.un.org/geospatial/content/c%C3%B4te-divoire-2>)



◇印：新規操業予定の水力発電所

出典：実施機関提供資料